

午後 1 時 30 分 開始

【秘書広報課長補佐】 お待たせをいたしました。少し早いですが、皆様おそろいの方ですので始めさせていただきます。

ただいまより平成27年6月の市長定例記者会見を始めさせていただきます。

本日の会見は、お手元の次第のとおり、最初に市長の挨拶、その後に2つ事業発表がございます。ご質問につきましては、この事業発表から承ります。その後、フリーの質疑応答のほうへ移らせていただきたいと思います。終了は14時30分を予定いたしておりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

それでは、市長、よろしくお願いいたします。

【市長】 改めまして皆さんこんにちは。6月の定例記者会見ということでございますが、市長になりまして、ちょうどひと月を過ぎたところでございます。

初登庁を思い出しますと何か遠い昔のような気がしますが、5月20日の日に臨時議会で中山副市長を議会のほうでご承認いただきまして、やっと一月たって生活のリズムにもなれてきて、今からかなという感じでございます。今度、6月22日から議会がまたありますので、それに向けて今頑張っているところでございます。どうぞよろしくお願いいたします。

では、本日の内容でございますが、2項目でございます。

一つは、平成27年度敦賀市職員採用候補者前期試験の実施についてでございます。

平成27年度敦賀市職員採用候補者前期試験をお手元の別紙のとおり実施いたします。今回募集する職種は、大学卒業程度の事務職及び技師であります。受付期間は今月12日金曜日から26日金曜日までで、第1次試験は7月26日日曜日、敦賀市立看護大学で行います。第2次試験は8月下旬、最終合格発表は9月上旬を予定しております。職員募集に当たっては、定員の適正化を念頭に、定年退職等による欠員補充、各年度における採用バランス等を考慮し実施することといたしました。なお、本年度からインターネットによる試験申し込みを導入いたします。

また、短大、高卒程度の事務職、技師、保育士等の資格専門職及び薬剤師等の医療技術職対象の後期試験については、7月上旬に募集要項を公表する予定でございます。

続きましては、平成27年度水防訓練の実施についてでございます。

敦賀市及び敦賀美方消防組合では、出水時期を迎えるに当たり、水防体制の強化及び水防技術の習得を図り、あわせて地域社会における水防の重要性の認識を高め、本市における水防活動体制の充実を図ることを目的に、6月6日土曜日10時30分から笹の川右岸河川敷及び古田刈公園内において水防訓練を実施いたします。

訓練概要につきましては、お手元に配付の資料のとおりでございます。どうぞよろしくお願いいたします。

発表内容については以上でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

【秘書広報課長補佐】 ありがとうございます。

それでは、ただいまの事業発表より質問を承りたいと思います。

まず、幹事社さん、何かございましたらどうぞ。

【記者】 職員採用試験のほうなんですけれども、本年度からインターネットを経由した申し込みが可能になったというのは、何か新たなシステマ的なものができたということでしょうか。

【市長】 採用の幅を広げるためにインターネットを導入しましたということでございます。

【記者】 ほかの自治体ではもう既にやっているようなことなんですか。

【総務部長】 県内9市のうち敦賀市を除く7市のほうで実施しておりまして、インターネットを経由するということにつきましては、福井県と、それから県内市町で共同運営しています。ふくeーねっと電子申請サービス、これを利用して申し込みをしていただくということでございます。

以上でございます。

【記者】 ありがとうございます。

【秘書広報課長補佐】 同じく、幹事社様、ほかにもございますか。

【記者】 ちょっと関連して採用関係の話なんですけれども、採用人数の推移というのは、こここのところ増減というのは、例えばふえていらっしやるとか、それから減っていらっしやるとかというのがもしわかるようであれば教えていただきたいんですけれども。

【総務部長】 採用人数につきましては、先ほど言いましたように定員の適正化という形でさせていただいているところでありまして、年度に応じまして増減というのはなるべく行わない形にはさせていただいているんですけれども。ただ、この二、三年ぐらいは定年する者がかなりいるものですので、その辺を全体的に調整とらせていただきまして採用計画を立てさせていただいているところでございます。

【記者】 若干ふえているという理解でいいんですか。

【総務部長】 事務職につきましては、去年は15名、大卒募集させていただいたんですが、ことしは13という形で、少し調整はとらせていただいているところでございます。

【秘書広報課長補佐】 よろしいでしょうか。

では、事業発表内容について各社お伺いをいたします。何かございましたら挙手をお願いいたします。

【記者】 ひょっとしたら総務部長になるかもしれないんですけれども、経団連加盟の一般企業の就職活動の時期が後にずれた関係で、一時期、よく公務員に逃げたりする人員もいるんじゃないかみたいなことを言われたりしたんですけれども、何か影響みたいなものを想定していることってあったりしますでしょうか。

【総務部長】 今回も7月26日という形で、これは統一的な実施日ということでさせていただきまして、その辺の影響とかは最近、去年とかおとし、だんだんと受験者数が減ってきているものですので、今回につきましてはインターネット経由とかで応募の申し込みもできるという形で、なるべく優秀な方が受験していただけるような体制だけはとっていききたいと思っております。

【記者】 あともう1点追加で、民間でも結構人員不足なんかが深刻になっていきますけれども、その傾向を踏まえると、さらにちょっと厳しい、優秀な人材をどう確保するかというのが結構知恵を絞らなきゃいけないような状況になっているんでしょうか。

【総務部長】 やはり民間のほうでかなり採用人数がふえているということは間違いのないと思いますので、その点につきましては、公務員としてのやりがい、またそういうものを広報とかを通じて行って、受験者の人を確保するようにさせていただきたいというふうに思っております。

【秘書広報課長補佐】 ほかにいかがでしょうか。

【記者】 基本的なところで申しわけないんですけれども、第1次試験の7月26日というのは例年の日取りとして大体同じ日なんですか。

【総務部長】 おっしゃいますとおり、例年7月の下旬にさせていただいているということでございます。

【記者】 ありがとうございます。

【記者】 水防訓練のことでちょっと伺いたいんですけれども、そろそろ出水期で、台風18号の記憶とかもよみがえるころなんですけれども、ことしの訓練の特徴ですとか、特に力を入れている点ございましたら教えていただけますか。

【建設水道部長】 昨年と大きく違いますのは、昨年は避難訓練とあわせて水防訓練を実施したと。その実施場所が笙の川の左岸で行いましたので、訓練内容は土のうを積んだりシートを張ったりとかいう工法しかできなかつた。ことしはまた原点に立ち戻って工法の訓練を充実したいということで、古田刈のほうで今計画をしております。

ことしは、一般参加として北地区、南地区の方それぞれ10名、合計20名に参加をいただいて、住宅浸水防止工法、これは水土のうとかそういった簡易なもので住宅への浸水を防止する工法、こういったものの工法も行っていきたいというふうに考えております。

また、防災ヘリコプターを使った救出訓練でございますが、ことしは浸水家屋内に取り残された要救助者を救助するというので、これまでと違った内容で考えてございます。

あと、工法等につきましては、昨年と少し変わったものがございますが、記載のとおりでございます。

【記者】 ありがとうございます。

工法の部分で新しく取り組まれるものというのは何かありますか。全く新しいものというのとは特にないでしょうか。

【建設水道部長】 今までに一回もしたことのないという工法はございません。過去に一回やったものをまた再度やりたいということで。例えば築き直し工法なんかは、おととしぐらいにやったものをまた再度訓練するというふうに考えてございます。

【記者】 一般参加も初めてではないのでしょうか。

【市長】 一般参加も初めてではありません。

【記者】 ありがとうございます。

【秘書広報課長補佐】 ほかにございますでしょうか。

【記者】 今の水防訓練についてですが、近年における敦賀市の出水被害があったものを二、三教えてもらいたいんですが。近年における出水被害、いつごろのものが大きいんですか。

それともう1点は、救出訓練ですけれども、防災ヘリコプター救出訓練というのは、タイムスケジュールによると11時15分ということで想定してよろしいんですかね。

その2点です。

【建設水道部長】 近年の出水の状況でございますが、やはり一番大きいのは一昨年台風18号、これが一番大きいかと思えます。市内の河川で護岸が崩れたり、それから土砂が堆積したところがございまして、縄間でもちょっと土砂崩れがございました。

あと、防災ヘリコプターのタイムスケジュールですが、一応11時15分を予定してございます。

よろしいでしょうか。

【記者】 この時間に会場に来るといことですね。

【建設水道部長】 そうです。

【記者】 救出される方というのは、消防職員、それと人形。

【建設水道部長】 いえ、消防職員を予定しております。

【記者】 了解しました。ありがとうございます。

【記者】 よろしく願いいたします。2点お伺いします。

1点目は、職員採用についてですけれども、トップである市長として求める人材、どういった人が今市役所にとって必要で、どういった人を求めたいというふうに思われておりますでしょうか。1点目です。お伺いいたします。

【市長】 市の職員になるわけですから、市民の皆さんのためにいろんなことができたらいいなというふうに考えている人が来てほしいです。能力的に高い人というのは近年たくさん来てくださるので、それにプラスして、能力の高い以上に心が優しい人が来てほしいなと思っています。

【記者】 ありがとうございます。

もう1点は、水防訓練に関してですが、こういったソフト面の充実というのも大変重要なことだとは思いますが、今ご紹介いただいたような土砂崩れであるとか水没の被害というのは多々起きてきていると思えます。箇所によっては毎年のように繰り返されるといふところもあって、こういった面のハードの整備、特にこの近隣でいうと呉竹から三島にかけて、特に笹の川沿いというのは水没する被害というのが毎年のように出ていると思うんですが、住民の方々もなかなか改善されないというふうな声も上がっています。このあたり、ハード面の整備というのは、今現状どのようにお考えで、どう対応していかれるご予定でしょうか。

【市長】 松島のポンプ場ができましたので、かなり水についてははげがよくなったというふうに理解しております。ですから、今後その推移を見ながらですけれども、今のところ何とかいけてるんじゃないかなというふうに理解しております。

【記者】 ありがとうございます。

【秘書広報課長補佐】 ほかにございますでしょうか。

それでは、フリーの質疑のほうに移らせていただきたいと思います。

まず、幹事社様のほうからお願いします。

【記者】 よろしく願いいたします。

原子力に関連して2点ほど伺いたいんですけれども。

放射性廃棄物の最終処分地の問題なんですが、先日の閣議で、科学的有望地というもの国が自治体に対して示すというふうな方針変更というか閣議決定があったかと思いません。淵上さんには今まで放射性廃棄物の処分の問題のことをしっかり伺ったことがなかったもので、改めまして、市長、最終処分、放射性廃棄物の処分のあり方はどのようにあるべきだと考えていらっしゃるか伺えますでしょうか。

【市長】 今までは希望する自治体をとということから、国が選定しますというふうに移ったということなんですけれども、私ども立地としましては、常に昔から最終処分場をどこかにつくってくださいよ、国のほうでお願いしますねということは申し上げてお願いしてきたわけですから、そのスタンスとすると変わらないということだと思います。ですから、国が責任を持って最終処分場をつくっていただきたいということです。

【記者】 例えば、科学的有望地として敦賀市が有望ですというような話がもし仮に来たとしたら、どのように対応なさいますでしょうか。

【市長】 そこについては議論が必要だと思いますけれども、私の第一感としますと、今まで国策である電力を供給するというところで原子力発電所に協力してきた自治体に最終処分場まで求めるというのは、いかがなものかなというのは思います。

【記者】 繰り返しになってしまっただけで申しわけないんですけれども、前市長、河瀬さんは、放射性廃棄物を出す原発の立地がごみの処分にも責任を持つべきではないかというふうなご発言をされていたんですけれども、そうすると、今のお話を伺っていると、立地はそこまで負う必要はないというような、そんなお立場ということではよろしいでしょうか。

【市長】 はい。それで結構です。

【記者】 ありがとうございます。

それではもう1点、きのうですが、市道西浦1、2号線が暫定的、一部分とはいえ開通いたしました。原電の全額寄附で進められてきたものですが、今、中断している状況にあるかと思えます。これも前市長は、市費での整備というのにはどちらかという否定的なお立場だったかと思うんですけれども、淵上市長はどのようにお考えをお聞かせください。

【市長】 その部分についてはずっと引き続けているものがありますので、3・4号機の増設というのを前提とした工事かというふうに認識しております。ですから、費用についても日本原電と話をしているということになると思いますので、市費でやるつもりは今のところございません。

【記者】 原電に対して寄附の再開を求めたりとか、何かそういったお気持ちがあったら伺えますか。

【市長】 寄附の再開を求めるということではなくて、まず最初に、やはり1号機、2号機がどうなっていくかということを見なくてはいけないというふうに思っていますけれども。ですから、1号機は廃炉のほうに決まりました。2号機は今、活断層ということが出ましたけれども、でも再稼働ということも事業者は目指していると思いますので、その辺の推移を見守りたいと思います。

【秘書広報課長補佐】 同じく、幹事社様、ほかにございませんか。

【記者】 関連しまして、きのう開通した西浦1、2号線の関係なんですけれども、市費ではなくて、例えば防災道路と考えたときに、県や国などに建設に関する、整備に関する支援を検討してもらおうということも可能だと思うんですが、このあたりのお考えはいかがでしょうか。

【市長】 防災道路として整備していかなくてはいけないかなという部分はございますが、西浦1号線の鷺崎トンネルのところ、一番難所のところができましたので、それだけの緊急性があるかなというのが一つありますので、今県のほうで整備を進めています白木と先端のほうの立石の間のところがありますから、それを待つという形になろうかと思えます。

【記者】 あとちょっと原子力の話題で恐縮なんですけど。

全原協会長のお立場としてお聞きしたいんですけれども、経済産業省の小委員会のほうで、将来、2030年の電源比率の案が示されていて、原子力については20%から22%と

示されています。震災前に比べるとちょっと下がったという状況なんですけれども、このあたりはどのようにお受けとめですか。

【市長】 政府案で示された電源構成の妥当性については、なかなか市としては判断しにくいと思いますけれども、20%から22%ということですので、原子力については、運転も40年運転制限、もしくは40年を超えた運転制限、もしくは新增設やリプレースを視野に入れることができるのかもしれないなどという微妙な数字だというふうに理解しております。

敦賀市としますと、やっぱり3・4号機がありますので、新增設になるのか1号機のリプレースになるのかちょっとわかりませんが、その辺がもうちょっと明確にならないかなというふうに思っています。

【記者】 明確にならないかなという部分なんですけれども、例えば新增設についてももう少し踏み込んだ表現を求めるであったりとか、何か今後働きかけていくようなお考えというのは今のところありますか。

【市長】 全原協の会長にもなれましたので、その辺もアプローチしていきたいと思えますし、全原協自体としましたら、安全を確認できた原子力発電所の再稼働、そういうこともありますし、被災地に対する支援ということも当然、国から支援ということもありますので、2つの目標を持ってやっておりますし、その中で敦賀市についても3・4号機を動かしていくということを求めていけたらなということは思っております。進めていきたいと思っております。

【秘書広報課長補佐】 幹事社様、よろしいでしょうか。

では、各社お伺いいたします。ご質問ある方は挙手をお願いします。

【記者】 先ほども何問か出た市道について教えていただきたいんですけども、担当部の部長さんになるかもしれないんですけども、3・4号増設に絡む地域振興の観点でというのがきのうの式典でも出ていましたけれども、ということは、3・4号機ができなければ別に費用負担の必要がないという、そういう約束になっているのでしょうか。

【建設水道部長】 そういう細かいお話は今まではなかったと思います。

ただ、今もまだ1号機、2号機は発電はしておりませんが施設はございますので、施設がある限りは市としては整備をしていただきたいというふうに思っております。

【記者】 ということは、そもそも必要性がどれだけかというのは私にははっきりとはわからないですけども、そういうことでしたら、市が原電に対して強く、ちゃんと約束したんだから費用を支払いなさいというような働きかけはすればいいんじゃないかなという気はするんですけども、いかがでしょう。

【建設水道部長】 ただ、今こういう状況でございますので、そこまで強く申し上げるべきではないのではないかとこのように思っております。

【記者】 渋上市長はどう思われますか。私は、必要な道路だったら完成させるべきだし、約束できっちり担保されているんだったら、尻たたこうが何しようがはっきり対応しなきゃいけないし、難所の部分で大体カバーできるというんだったら、もうそれ以外は要らないでしょうと地元で説明しなきゃいけないと思うんですが、いかがでしょう。

【市長】 最初のときには3・4号機が建設をするというスキームの中で、その道路を整備しましょうということが始まりました。ですから、そのときに敦賀市のほうが工事、事業者がやるのはいろいろ煩雑なので、敦賀市のほうでそれを受け取ってお金をいただいてやりましょうということで進んできた計画なんですけれども、その後、地震がありまして原子力発電所がとまってしまったので、その辺でどうしましょうというところでとまっているんですが、先ほど質問にもありましたように、防災道路としての必要性はまた別の意味で高くなってきたわけなんです。ですから、今のところ過渡期にありますから、鷺崎トンネルができて、今の計画のところできて先端のところがつながれば、今までよりはよくなるなというところがございます。

ただ当然、県道の部分と市道の部分が平行して走っている部分もありますので、その辺をどうしていくかというのは今後の議論になるかと思えますし、全体をつなげていって一本の道にしなくてはならないということも議論していかなくてはならないことになると思えます。ただ、今その議論はまだできておりません。

【記者】 あともう1点お尋ねしたいんですけども。先ほど電源構成のときに市長がい

みじくもおっしゃったように、リプレース、新增設については直接書いてなくて、認められるんじゃないかともとれるし、そうでないのかなともとれる、ちょっとわかりにくい部分があるんですけども、市としては当然、敦賀3・4号機がだめだった場合の財政をどうするかというのとも考えていかなきゃいけないと思うんですけども、特に3・4号機が建設できなかった場合、市の財政運営、中長期の財政をどうするか。その辺って今後検討される予定だったり、もう既に作業を進めていたりするんでしょうか。

【市長】 今からの検討になろうかと思えますけれども、やはり企業を誘致したりいろんな作業を持ってくるということも必要ですし、産業団地、第2産業団地、計画はありますけれども、その辺でどんな企業を持ってくるかという検討や、港、敦賀港の発展をどうしていくかということも計画の中に入れながら今からやっていかななくてはいけないと思っています。

【記者】 そうすると、実際に検討するのは大分先になりますかね。美浜町なんかは1・2号が廃炉になったので、いろんな前提条件は加わっていますけれども、今後5年ぐらいの中期の財政計画をつくったりしたんですけども、敦賀市の場合は三法交付金で幼稚園、保育園だったりとかの人件費とかも賄っていますけれども、今後財政をどうしていくか。特に三法交付金って割とメリットの大きい財源だったりするので影響大きいかと思うんですけども、その辺、具体的に何か考えていらっしゃることはありますか。

【市長】 今いろんなところに模索をしているんですけども、動き出してはいるんですけども、皆さんにお知らせするような中身じゃないということでご理解いただけたらと思います。

いろいろやろうとはしていますけれども。

【記者】 わかりました。

【秘書広報課長補佐】 ほかにございますでしょうか。

【記者】 教育長にお尋ねします。

5月の登山の松陵中学校の生徒ですが、その後、子供たちが何らかの症状を訴えるということはありませんか。それから、記者会見でもいろいろ教訓となることをおっしゃっていましたが、その後、新しくわかったことなどがあれば教えていただきたいと思えます。

【教育長】 この件に関しましては、大変皆様方にご迷惑、ご心配をおかけいたしました。

幸い、その後、子供たちのケアということで対応してまいりましたけれども、そういった点につきましては元気に登校できておりますし、また、学校内におきましてもスクールカウンセラーとかそういった方々のサポートなども含めて対応してもらっているところでございます。

また、この事故、事件を教訓にして、やはり二度とこういったことを起こさないというために、私どもとしましては校長会等を開き、また、これまでの校外学習の計画のあり方、あるいは関連する団体、団体というよりも機関、こういったところと迅速に連携をとり合うその方法、方策を再度確認し、確認した事柄を今後の計画に生かしていくということで、その後のいろんな校外学習、遠足的な行事、そういったものにつきましてはしっかりとチェック機能を果たしているところでございます。

一番大きな教訓というのは、人間それぞれが自分の能力あるいはまた感覚、そういったところでの思い込みがあり過ぎて、しっかりとした連携、こういったところがどうしてもひとりよがりになる、あるいはもうみんなが理解しているものと思うというような、そういうような点が見受けられましたので、再度、報告、相談、連絡、そういったことと、いろんな計画がどのような時点で、事前のチェック、事中、事後あわせて対応していかなくちゃいけない。これを今教訓として各学校で実施しているところでございます。

以上です。

【記者】 了解しました。

【秘書広報課長補佐】 ほかにございますでしょうか。

【記者】 市道の西浦1号線、ちょっとくどくて申しわけないんですけども、2013年の台風では若狭町の常神半島が1カ月間孤立するという状況になりました。敦賀半島の反対側、もんじゅがあるほうでも、もんじゅへの道が木が塞がれて行けないというような状況

に陥りました。防災道路としての必要性を市長も感じていて、かつ市道としても認定しているわけなんですけれども、住民の安心、安全を考えるとという面から、市費でやるつもりはないということを明言されたというのはどういったわけなのでしょう。

【市長】 今ご質問されているのは、もんじゅのほうでこの間、土砂崩れが起きたところの話をしてるんですか。

【記者】 いや、市道の西浦1号線の今中断しているほうで、敦賀原発があるほうでも似たようなことが考えられるとは思いますが、それでも今、原電の寄附が中断しているという状況で、市費を投入してまでやる必要はないというふうに考える理由というのはどういったところにあるのかなというのをちょっと教えていただきたいなと思いました。

【市長】 多分、私の頭の中とは比較するものが違うんだろうと思いますけれども、今ある西浦道路につきましては、西浦1号線、2号線のところにつきましては、土砂崩れとかそういう危険性があるからやろうとしているわけじゃないということで、通行するための利便性をアップするためにやっていますので、そういうこととはリンクしないと思っています。

【記者】 わかりました。ありがとうございます。

【秘書広報課長補佐】 ほかにございますでしょうか。

【記者】 北陸新幹線について、ちょっと話変わりますが、お伺いしたいと思います。

県内延伸については、既に福井先行開業ということで議論もスタートしておるようです。まず、この点について、市長としてのお考え、受けとめをお伺いします。

【市長】 2年前倒しで福井先行開業ということについて、敦賀の開業に影響がない範囲であれば、それはそれで進められたらいいのではないかなと思っています。

【記者】 影響がない範囲といいますと、具体的に、例えばどんな影響が懸念されますでしょうか。

【市長】 開業の時期が敦賀市がおくれてしまうんじゃないかなということがないような範囲であれば、別に構わないと思っています。

【記者】 もう1点、北陸新幹線に関して、昨日というか少し前に中池見を通るルートの変更が委員会及び鉄道・運輸機構でも了承されて、先日、我々、非公開ではありましたが、この件については、市長は今後の推移も含めて、このまま行って特に問題がないとお考えか、今後の建設の時期の問題などを含めて懸念材料があるのか、今のお考えをお尋ねします。

【市長】 新しいルートについて図上で示されただけですので、どれだけ影響があるかというのはちょっと今、私のほうでは理解、つかめてないんですけれども、この辺に来るなということで現地に行って地元の方と現地の山とかを見た感じでは、尾根がありまして外側に水が流れていくという方向なので、今のアセスルートでいいんじゃないかなという第一感を持ちました。それ以上の細かい突っ込んだことについては、皆さんの意見とか細かい資料とかをいただかないとわからないという状況です。

【記者】 少しそれるかもしれませんが、利活用の検討委員会のほうでは、今後、早ければ7年ぐらいで基金が底をつくという状況の中で、市長は残念ながら出席はできなかったということですが、どうやって資金源をつくっていくのかという中で、JRから土地の賃借料を含めて迷惑料のようなものを取ってはいかがかというふうな意見もあったようです。このあたり、中池見の存続に向けて、市長の私案等あればお聞かせ願えますでしょうか。

【市長】 迷惑料についてはちょっとコメントを差し控えさせていただきますけれども、今あそこにビジターセンターみたいなのがございます。あそこで一応、今は営業活動も何もしていませんので、来られる方にお水を提供したりするだけの場所になっていますので、あそこでそういう維持運営費みたいなお金が賄えるような状況にならないかなと一つ思っております。

もう一つは、まだちょっと具体的にはっきりしませんけれども、今回、ふるさと納税の返戻金ということがありますので、そのメニューの中に中池見を応援して欲しませんかということも入れられないかなというようなことを考えています。

【記者】 ありがとうございます。

新幹線関係、最後に1点だけ。福井先行開業とあわせて、先日、与党だったと思いますけれども、敦賀以西のルートについての検討会が高木議員を中心に立ち上がることになったかと思います。この以西のルートについて、改めて市長のお考えをお聞かせ願えますでしょうか。

【市長】 敦賀以西につきましては、小浜を通過して大阪のほうにとというのが福井県の総意だと思っています。

【記者】 福井県はそうですけれども、市長ご自身としては、やはりそれが望ましいとお考えでしょうか。

【市長】 私もそう思っています。

【記者】 ありがとうございます。

【記者】 今の新幹線との関連なんですけれども、市長、先週、促進期成同盟会の総会等々に出席なさったかと思うんですが、敦賀以西のルートについてですけれども、関西広域連合の姿勢といいますか、これまでは米原ルートを優先的にというようなそういう姿勢だったのが、兵庫県の井戸知事の私見として、米原ではなくて直接大阪に入るようなルートというの必要なんじゃないかという、そういうようなお声もあったかと思うんですけれども、福井県は確かに以前からずっと若狭ルートということで掲げておりますけれども、ちょっとでも早くつなげるという意味では米原というのものないことではないのかなと思ひまして、改めてお聞きするんですけれども、若狭ルートは理想ではありますが、その前に米原に接続するというような選択肢、そういうことはお考えにはなっておられませんでしょうか。

【市長】 私、個人的な意見とすると、そこには考えておりませんが、新聞なんかで拝見しますと、この間、知事が集まって話をされたという中で、滋賀県の三日月知事は米原につなげばどうですかという話が出たというのは読みましたけれども。そこは私としますと、やっぱり若狭ルートがいいと思っています。

【記者】 教育長にお伺いしたいんですが、先ほど質問に出ていた松陵中の遭難——遭難みたいなやつなんです、結局、原因はある程度詳しくわかったんですか。なぜおこれて、なぜ最後尾の先生が生徒を見落としたかなど。

【教育長】 一言で申し上げますと、記者会見のときに申し上げた、それが大きな原因でした。その後も教師集団の動き方、把握の仕方、そこに問題があったというふうに私どもは考えております。

【記者】 具体的に、先生の動き方、どういう問題があったんでしょうか。

【教育長】 205名の生徒を13名の教員で引率をしたわけです。実際には本部待機職員というのでもございましたから、11名の教職員がその205名を引率あるいは後ろから監督しながら誘導するという、そういうことでございましたけれども、一つは山の形状、いわゆる道路の広さ、あるいは山頂、あるいはそういう地域における広さ、こういったものにキャパシティが不十分であるにもかかわらず、そういう205名を連れていったというところ。なおかつ205名を常に集団で把握できていなかったということ。つまり、その集団がばらけてしまっていて分散し、連携がうまくとれなかったこと。ここがやはり一番大きな原因だと思っております。

【記者】 というと、最後尾に先生いらしゃったというお話だったんですが、山の形状、入り組んでいるのかわからないですけれども、どこかで見落としたということなんです、生徒さんを。

【教育長】 見落としたというよりも、隘路というか、わき道というか、そういったものがあって、生徒たちもここは通った道だろうかというような、そういう不安を持ちながら、そしてやはり先生に連絡をとらなきゃいけないという、そういうことで立ちどまり、その中のグループが先生を探しに行くという、そういうようなことをしているうちに、最後尾の教師がわき道にそれている生徒に気づかずに通過をしてしまったという、そこに原因はあったと私は思っております。

【記者】 なるほど、じゃ生徒さんも道間違えたというか、わき道入って迷われて、それで最終的に来た登り口に戻ろうとされたということなんですね。



【教育長】 そのとおりです。

【記者】 わかりました。ありがとうございます。

【秘書広報課長補佐】 ほかにございますでしょうか。

【記者】 新幹線のほうに話を戻しまして、新幹線、敦賀延伸が8年後ですね。市長、公約に敦賀駅の新幹線口とインターチェンジのアクセス道路を整備するというを入れたかと思うんですが、もう時間的にぎりぎりですよ。土地収用、設計して収用して、JR西日本がどのような駅の形態にするのか、まだ聞いていませんけれども。それであっても時間的にぎりぎりであると。

私は前、記事に書いたんですが、東口を遠距離のバスターミナルとすることによって北近畿各地から新幹線利用客を引き込めるという話を書いたことがあるんですけども、それにご賛同いただいてあの公約をつくられたのかと考えるわけですが。ただ時間的にはもうぎりぎりなんですよ、ご存じのように。これからどうやってその公約を実現されていくのか、そのステップをお聞きしたいと思います。

【市長】 記事は読ませていただきましたが、そこじゃなくて、もっと前から考えておったということでご理解ください。

どこで渡るかということが問題になるんですけども、渡る場所というのは今選定しようとしています。その選定する場所については、道路新しく通りますので、その部分は、そこに桁が当たらないようにということで解決できるんじゃないかということをお返事としてはちらっと伺っています。確約ではございませんけれども。

それにあわせて、そこから敦賀インターまでのアクセスと駅東に対するアプローチになってくるんですけども、新幹線の駅の場所というのが結構微妙なので、その辺は決めるのにちょっと時間がかかろうかと思えます。また在来線とのアクセスが結構遠いということをお聞いているので、その辺は何となくはいけないなということが国のほうで議論になっているということも聞きますので、その辺のつなぎ方というのは今からになるかと思えます。

私の考え自体は、駅裏まで抜ける、駅東まで抜ける道の確保ということと、もう一つは敦賀の駅を先に工事をしたいという気持ちがありますので、そういうことをお願いしていきたいなと思っています。

【記者】 駅の工事というのはどういうことでしょうか。

あと、どうも福井県の方は駅の中のホームを歩くのをすごく嫌がられるようですけれども。東京でも名古屋でも駅の中、名古屋駅でも東京駅でも1キロぐらい歩くのはみんな平気で歩いているんですけども、二、三百メートル歩くのも嫌なんですよ、福井の方は。

駅の工事がどうなるかということと、駅が開業しちゃった後にバス路線を引くとなると結構大変だったりするんですよ、民間企業は。それにあわせる時間短縮の方法を何か考えていらっしゃるのか、お聞きしたいと思います。

【市長】 駅のホームが距離があるからということで困っているのではなくて、その場所がどこに来るのかということで、その後の取り合いとかが決まると思うんですね。そういうことで早く形を見たいということがあります。

駅前広場、工事して、もうすぐ完成しますが、それで本当に間に合うのかどうか、それに合うのかどうかということもまだわからない状態というのはすごくつらいので、その辺も含めて早く検討したいということが課題です。

【記者】 了解しました。

【記者】 アクアトムの現状と今後の利活用についてお伺いしたいと思います。

まず現状について、市のほうは顔ぶれも変わったかと思いますが、三者協議などを含めて現状どのように進んでおられるのか確認させてください。

【政策推進課長】 アクアトムの現状についてですが、市のほうでは昨年9月議会で前市長が県とともに所有していく方向で検討していくということを表明いたしまして、その後ずっと県、それから現在の所有者であります日本原子力機構さんと三者で協議を進めているというところでございます。

利活用計画につきましては、市内部では少し検討を始めているところなんですけれども、その後の費用負担とかそういったところで県、機構とまだ完全に折り合っていないという

状況で、建物が大きく、また将来に対してすごく負担が発生するというふうに考えられますので、市としては慎重に丁寧に進めているという、そういう状況でございます。

以上です。

【記者】 ありがとうございます。市長のご意見をお伺いしたいんですが、この問題は非常に長引いております。もう数年以上は経過しているかと思うんですが、まちの中心部ということもありますし、市長として、今までこの経緯を含めて、ここまでどのようにこの問題を捉えられていますでしょうか。

【市長】 今、課長のほうから話がありましたように、どうしたらいいかという話を議論を進めているところなんですけれども、最終的には壊してしまうんじゃないかと、何かにぎわいのある施設を持ってきたいというふうに考えています。それを話をする以前として、三者協議が整わないということがありますので、そこを早く整えましょうねということをお話しているところです。

【記者】 とはいえ、このまま、前市長のときからもそうですけれども、ずるずるとというのがずっと来ているというふうに思います。市長としては、いついつまでには結論を導きたいというふうにお考えでしょうか。

【市長】 一応話をした中で、こういう方向で行きましょうかという話をしましたので、それを県とか機構さんにぶつけてみて、その返事待ちという形になると思いますが、うまくいくと今年度中にはすっと終わると思います。

【記者】 おっしゃられたこういう方向でという、先ほど課長からもありましたけれども、敦賀市としての私案ということになると思いますが、具体的にはどういった提案をされていらっしゃるのでしょうか。

【市長】 それはちょっと今は出せないの。今から相手との話になっていきますので、ご勘弁ください。

【記者】 以前、選挙戦を通じましても、市長は恐竜というキーワードを持って、県とのパイプの中で嶺南にもという話を差し上げていました。そのような趣旨というふうに理解してよろしいでしょうか。

【市長】 その趣旨で結構です。それを進めていこうとしますと今の問題があるということがわかったということで、早く解決したいと思っているんです。

【記者】 今のような問題があるというのは、ちょっと理解ができないんですが。

【市長】 ですから、アクアトムをどういうふうに誰が管理するのかということがまだおさまってない状況ですので、誰がどういうふうに管理していくかということをおさめないことには、そこを敦賀市が使うも使わないも話にならないという状況です。

【記者】 ありがとうございます。

【秘書広報課長補佐】 ほかにございませんでしょうか。

【記者】 今ほどのアクアトムの件なんですけれども、恐竜博物館みたいな形での活用というのは、県のほうにはもう打診されているのでしょうか。

【市長】 話題に上ったことはありますけれども、正式な打診はしたことはありません。まず管理上の話が先だよという話で終わっています。

【記者】 そうすると、恐竜博物館分館みたいな形での活用を前提に今進めているということではまだないということなんですか。

【市長】 そうです。

【記者】 先ほどの課長のご説明の中で、費用負担に関して県と機構とまだ折り合っていないというふうなお話だったかと思うんですけれども、差し支えない範囲で、具体的にどうということなのか教えていただけますでしょうか。

【政策推進課長】 差し支えない範囲でということでお答えさせていただきますが、13年建設されてからたっている施設でございまして、将来にわたって大きな解体費とか大型修繕費といったものが発生するということが予想されているんですけれども、そちらにつきましても、昨年9月議会での市長の提案理由の中では、敦賀市は将来にわたって費用負担を負わない形で所有を検討していきたいということをお知らせしておきまして、そこからまだ軸足は変わっておりませんので、そういったところを敦賀市は目指しているんですけれども、実際にそういったことが本当に可能なのかどうかというところで、県さんが描いて

こられるスキームとうちが思っているスキームが少し食い違っているところもありまして、また所有者であります機構さんのいろいろな思いということもありますので。

でも、そういつまでもただらとやっけてはいけないということは当然承知しておりますので、新しい市長さんをお迎えして、新体制の中でできるだけ速やかに進めていきたいというふうに考えています。

以上でございます。

**【記者】** 市長に伺いたいんですけども、去年の9月議会で、当時副市長さんが答弁なさったかと、市長もお話しかったかと思うんですけども、市として新たな費用負担はするつもりはないというようなお考えだったんですが、アクアトムに関して。それは渕上市長も中山副市長も方針としては変わってない状況なのでしょうか。それとも何か、にぎわいのためには一定程度の費用負担は必要であるというような修正が加わっているのでしょうか。

**【市長】** 全く費用負担がないというところで投げかけて、とまっておりますので、ある程度のことは考えていかななくてはいけないというふうに思っています。

ただ、それは私どももありますし相手もありますし、当然議会もありますので、今決定して言えることではありません。

**【秘書広報課長補佐】** よろしいでしょうか。

では、これもちまして6月の市長定例記者会見を終わらせていただきます。

ご協力ありがとうございました。

午後2時26分 終了